

12月17日(日) 第二礼拝「天国の門と鍵」 マタイ 16章 13-19節

イエス様は、ペテロの告白を聞いて、彼に天国の鍵を与えてくださいました。

第一番目、天国の門です。天国はヘブル語でマルクトゥ、ギリシャ語でバシレイヤです。神様の主権で統治される所、その空間、地域、領土全てが神の国です。ですから、私たちは「御国が来ますように、御心がなりますように」と祈っているのです。当時ユダヤ人たちは御国がまだ到来していないと思っていました。しかし、イエス様は「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」と語られました(マルコ 1:15)。この神様の統治を受け入れる瞬間に神の国が訪れます。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。『そら、ここにある』とか、『あそこにある』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」(ルカ 17:20-21)

神の国は人間が支配する国ではなく、神様を中心とする、神様の統治される国であり、恵みによって上から与えられるものです。また、神の国は心の貧しい者、子どものようにへりくだった者が受けるのです。

第二番目、天国の門を開く鍵です。神様が全ての権威をイエス様に預けました。「聖なるかた、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、(黙示録 3:7)「わたしはまた、ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開くものはない。」(イザヤ 22:22)

ペテロは失敗も多く学識もない人でしたが、そのペテロにイエス様はこの鍵を与えました。これはペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と告白したからです。更に、イエス様は「このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」と言われました。イエス様を救い主だと信じる信仰、これは天からの啓示なのです。このように私たちが信仰告白をする時、神様の統治が私たちの上に臨み、天国の門を開く鍵が与えられます。そして、その信仰告白の上にイエス様は教会を建てられ、教会を通してハデス(死)を打ち破られます。しかし、イエス様を主と告白しない集まりは教会ではなく異端であり、天国の望みはありません。

第三番目、天国の門を開けることです。「わたしはあなたに天の御国のかぎをあげます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」この御国のかぎを持って、私たちが積極的に人前で「イエスキリストは神様である」と告白し、相手を祝福することが重要です。そうすると、天国の門が開かれ、その人が救われるのです。民数記 6:24-27 では、3回「主」という言葉が使われていますが、これは三位一体なる神様の祝福であり、父なる神様の守り、御子イエスキリストの十字架の死と復活の恵み、御霊の交わりと平安であります。私たちがイエス様の御名(主は贖い主、主は羊飼ひ、主は勝利、主は癒し主…)を宣言し祝福して祈る時、天国が開かれ、御国の統治が始まります。アーメン!